

学校関係者評価委員会 報告書  
(平成 28 年度分)

平成 29 年 10 月 11 日  
学校法人国際総合学園  
国際こども・福祉カレッジ

1. 開催期日

平成 29 年 10 月 11 日 (水) 18:30~19:30

2. 開催場所

ホテル イタリア軒

3. 出席者 (8 名)

(外部委員) 山崎一夫、稲田泰紀、宮崎則男、地引文貴

(本校職員) 学校長、副校長、教務部長 2 名

4. 委員会次第

- ・開会の挨拶
- ・学校関係者評価委員の紹介
- ・平成 28 年度事業報告及び平成 29 年度事業実施状況報告
- ・学校自己評価の説明 (平成 28 年度の取り組みについて)
- ・学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・閉会

5. 学校自己評価に対する意見、質疑応答

① 教育理念・目標

- ・平成 29 年度開設の医療福祉マネジメント学科を加えると、高校卒業、短大卒業、専門学校卒業、大学卒業、大学中退者など受入れの幅がさらに広がることで社会的なニーズに対応していると言える。

② 学校運営

→良好である。

③ 教育活動

- ・社会福祉現場の施設としても、小学校・中学校・高校に福祉系の出前講座を行っている。小学生の高学年に高齢者支援の DVD を素材にグループワーク等を行うと、支援者側ではなく利用者の視点に立った意見も出る。そのあたりを上手に引き出して職業理解から進路選択に繋げていけたらと思う。また、国際こども・福祉カレッジとしても上級学校訪問や出前講座等で中学生や高校生と関わる機会があるのだから、その点においても現場福祉施設との連携を図っていたら良いのではないか。

- ・18歳人口の減少などの社会情勢を考えると、今後はさらに社会人向け講座や留学生の受け入れを充実させていく必要がある。
- ・人手不足と言われる介護福祉士の養成課程に留学生を受け入れている現状は、介護現場の人材確保だけでなく、アジア地域に日本の介護を発信していくことにも繋がる点で評価できる。

#### ④ 学修成果

- ・退学率の低減が図られた要因は？  
→学生の変化に早めに気付くことが重要。担任、学科長等による声掛けや面談、保護者との連携を中心に早期対応を心掛けている。

#### ⑤ 学生支援

- ・保護者アンケートの結果等を拝見する限り、全体的には学校運営に対して保護者の方々からの理解は得ていると考えられる。今後も学生たちを支える保護者の思いというものを大事にしていってほしい。

⑥ 教育環境 →概ね良好である。

⑦ 学生の受入れ募集 →良好である。

⑧ 財務 →良好である。

⑨ 法令等の順守 →良好である。

#### ⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・複数の学科における教育訓練給付制度の適用状況や、介護福祉士実務者研修の実施、新潟県立新潟テクスクールからの職業訓練の受託等、社会のニーズに対応した活動を実施できていると言える。